

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 2月 29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104476		
法人名	医療法人 社団 恵宣会		
事業所名	グループホーム あき・なごみの家		
所在地	広島市安芸区船越南3-7-24 (電話) 082-821-2873		
自己評価作成日	令和6年1月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470104476-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年2月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

毎日の集団レクリエーションや体操、ドライブや屋外での茶話会など活動機会を多く持つ。入居者のレベルに応じて職員と共に家事を行って頂きながら、できるだけ家庭的な雰囲気作りを目指している。同一敷地内にクリニックがあり、医療面においては、医師及び看護師に迅速に相談でき、入居者の体調管理が的確に行えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念を実践するために「自由な意思の尊重・安心と生きがいのある生活」では、利用者の意思・要望を深く理解して取り組んでいる。日常業務の中で、利用者の支援に関する職員の「気づきや疑問」をシートに記入し、職員の話し合いで問題点を改善する取り組みを行っている。個別活動レクリエーションとして少人数グループでの近隣公園へのドライブでは、季節の花を眺めるなど利用者の笑顔が見える支援を行っている。近隣のスーパーでの買い物では、利用者の好きな品物を選んで購入するなど、利用者本位の支援に取り組んでいる。利用者の後見人制度利用では、市と相談して利用者の後見人利用を実現させた。職員の研修にも積極的に取り組み、職員各自が動画を利用した研修を受けている。AI機器を導入して職員の業務改善に積極的に取り組む方針である。

自己評価	外部評価	項目(ユニットA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を掲げて、毎朝のミーティング時に理念・行動指針の読み上げを行うなど職員に理念共有の徹底を行っている。会議において、理念を判断基準として決定している。	事業所の理念があり、毎朝の申し送り時に唱和して共有している。利用者と家族の要望を把握して理念の実践に取り組んでいる。	理念に沿った支援に取り組んでいるが、今後は、実践状況を職員と評価し、より良い支援への課題を見出して取り組むことを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域との関りが持てるよう可能な限り地域行事等には参加したいが、新型コロナウイルス感染拡大により、思うような活動が出来ていない。	コロナ禍以前は、地域が開催する「こここサロン」や認知症カフェに参加したり、地域の祭りや盆踊りに出かけていた。今後は状況を見て、地域行事に参加したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染拡大により運営推進会議等も思うように開催できず、地域との関りも難しい状況ではあるが、予定した運営推進会議の資料を各事業所にFAXして意見や感想を求めている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染拡大により運営推進会議の開催が出来ていなかったが、本年度より開催できるようになっている。日々のレクリエーションの様子や行事の様子などを紹介し、その他課題点などを出して意見を頂いている。	運営推進会議は昨年5月より対面会議を再開し、民生委員・地域包括支援センター・介護事業所が参加し、家族は家族会開催日の会議に参加している。出席者の意見で、事故報告書に職員が確認した身体状況の記載、ヒヤリハット報告書は簡潔に記載するなど内容を変更した。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	同地区の他施設との意見交換、区の生活課や地域包括支援センターとの連携などして、市と共にサービス向上に取り組んでいる。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、意見交換を行っている。市の生活課担当者と連携して利用者を支援している。利用者の後見人制度利用に関して、市と連携して後見人導入を実現した。	

自己評価	外部評価	項目(ユニットA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、その有事のみの行使に至るよう対策を講じている。帰宅願望が強いなどして施設内を歩き回られる入居者がいることなどもあるが、玄関には開閉がわかるように警告音センサーを設置して対応している。予定する運営推進会議においても定期的に身体拘束への対策を議題に挙げ報告をし、感想・助言を受けている。	身体拘束のマニュアルを作成し、職員が身体拘束と判断する基準とし家族への説明にも活用している。転倒や身体に危険が生じる行動を防止するために、ベッド柵などを使用する際には十分に時間をかけて協議している。運営推進会議で身体拘束廃止委員会の報告を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修や施設内での勉強会などにおいて虐待防止に取り組んでいる。日々の申し送りなどでもスタッフ間で確認を行い、気になることについては報告し、意見や感想を出し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	身寄りのない利用者の入居時には金銭管理に社会福祉協議会によるかけはしサービスを利用し、外部からの視野が出来るだけ入るようにしている。令和5年に入居者3名の後見審判を申請し保佐人、補助人が選任され、連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居から退去までの内容と条件を詳しく説明して同意を頂いている。契約内容の変更があれば、予め文章にて通知を行い、説明・同意の手順を再び行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常日頃から利用者と信頼関係を築けるよう努力し、訴えやすい関係を目指している。ケアプランの立案、説明時には話し合いの場を持てるようにするほか、定期的に請求書送付とともに入居者の様子を文面にて家族に報告している。伝える内容などについて統一し、担当制をとってご家族とより近い関係を構築できるよう計画である。	家族が来所した際、職員は利用者の状況報告を行い、家族からの情報を確認して利用者の支援に活用している。外泊時の介護方法に関して家族へ説明を行う事もある。年1回、家族会・敬老会を開催し、家族とレクや食事を楽しみ午後は事業所の状況報告や意見交換を行っている。	

自己評価	外部評価	項目(ユニットA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員面談を定期的に行い、職員の考えを汲み取るほか、職員一人ひとりが気付いた事を会議に出しやすい環境が生み出せるようにしている。朝の申し送り時・午後のミーティング時の際、職員間で話し合う機会を持ち、意見等を反映させている。	年に1～2回、職員面談を実施し自己評価と人事考課を行い、職員の意見や要望を聞いている。職員が日常業務での気づきを「提案・疑問」シートに記入して話し合う取り組みを行っている。居室の掃除方法の変更や便秘防止としてヨーグルト提供に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	一人ひとりの職員の状況を管理者が把握し、向上心を持って働けるよう努めている。子育てやその他家庭の事情などで急な勤務変更が生じる場合にも職員間で互いに対処できる体制を築いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員対象にアプリによる動画研修を実施している。また、管理者・職員を段階に応じて育成する為の研修を受ける機会を設けている。就業時は業務マニュアルに沿い、出来るようになったか本人と担当者が話し合いながら業務を広げていくようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	新型コロナウイルス感染拡大により思うようにはできていないが、可能な限り同業の施設と運営推進会議などに相互に構成員として参加し、相談できる関係を構築している。問題が発生した時には相談や意見交換をし、相互に協力できる関係を築いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談を受けた当初は当施設がご利用者に適しているかといった視点からも考えていただけるよう配慮する。入居に至るまでに入居者本人との面会を実施する他にも家族や関係者などからの情報の提供を受け、職員間で今後の対応について話し合うことで、入居後に信頼関係をより早く築けるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目(ユニットA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>各職員が家族の意向などにしっかりと耳を傾け、すべて対応できているわけではないが、不安ができる限り取り除けるように努めている。窓口を設け、細かな相談まで対応できる努力をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用・入居希望の相談を受けた時にはまず、本人、家族が現状で困っていることや不安に感じている内容を知り、介護保険の概要や他サービスも含めた説明をするなどしながら、個々に応じた対応をしていけるよう努力している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>管理者・職員は、利用者の喜怒哀楽を共にし、家事やイベント、外出など様々な事に共感しながら支えあう関係を築いていけるよう努力している。日常の家事など入居者個々に出来る範囲で行って頂き、その都度感謝の声掛けをしあっている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>管理者・職員は、できる限り家族の意向を尊重し、一緒に入居者本人を支えていく関係を築いていけるよう努力をしている。変化があった時は必ず家族に連絡し、必要とあらば、家族による支援がなされるよう相談をしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居者本人の馴染みの人や、場所の関係が途切れないような支援に努めている。家族への手紙や電話の要望があれば対応するなどして、家族との関りが保てるように支援している。</p>	<p>家族や知人が事業所を訪問しやすいよう取り組んでいる。コロナ禍であっても、他の利用者との接触を避けて居室で面会したり、ベランダで窓越しに顔を合わせる取り組みを行って馴染みの関係継続の支援を実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ユニットA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係は把握しているが、入居者同士の交流が困難な場合は、職員が介入して円滑な関係が築けるような支援に努めている。入居者数名での個別プログラムの機会を使い、入居者相互の関わりが持てるよう支援を考えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても、必要に応じて、本人・家族あるいは他施設関係者からの相談や連絡を受け、郵送物の返送など適切な支援が行われるように説明やフォローを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	集団生活の中で制限される部分もあり希望に添えないこともあるが、入居者一人ひとりの要望・意向の把握に努め可能な限りの支援が行えるよう努めている。自発的な訴えの無い入居者の意向・要望を汲み取るため情報収集に努め、職員間で共有する体制を向上させることが課題として上がっている。	利用者の意向を把握する際には、具体的な例を挙げて聞いたり、発語が少ない利用者に対しては、家族からの情報を活用している。待つことが苦手な利用者には、その人の意向に沿った生活ペースの把握に努め、ケアプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者一人ひとりの生活歴、環境、これまでのサービス利用の経過等の把握を入居時に家族や関係者から聞き取り、また入居後の本人との会話の中からも生活歴を探るなどして、職員間で共有できるよう努めている。職員により日々の関わりの中で得られる情報に違いがあることを前提に、共有していく事が課題として上がっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、嗜好、有する能力等の現状を総合的に把握できるようケアプラン作成時のアセスメントを行い、生活の中で役割が持てるように努めている。ケアプランに日々の役割をあげていく中で、職員の意識も向上し、入居者のIADL(手段的日常生活動作)の把握にもつながっている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニットA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	連絡のとりづらい家族もあるが、入居者本人がより良く暮らすため、入居者本人、ご家族や必要な関係者と職員それぞれが話し合うことで意見やアイデアを出し合い、それらを活かした介護計画を作成している。	利用者ごとの担当者を配置している。3か月に1回開催されるアセスメント・ケアプラン会議では、利用者の担当者・計画作成担当者・出席可能な職員が参加してアセスメントを行い、家族や医師の意見などを勘案してケアプランの見直しを行っている。最終的には計画作成担当者がケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活の様子や、ケアの実践、結果、気づき等を個人記録や業務日誌に記入し、情報を職員、家族、必要な関係者と共有しながら介護計画の見直しなどにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者に合わせた少人数でのプログラムを計画することで、既成概念に捉われない個々の要望に応じた柔軟なサービスを提供していけるように努力している。入居者個々の意志を尊重し可能な限り対応している。意思表示の困難な利用者もあるが、外出援助などにより気分転換を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会や消防機関などと協力した関係を築けるよう努力はしているが、新型コロナウイルス感染拡大により、地域との関りに制限を設けざるを得ない状況になっている。しかし、機会があれば地域で活用可能な機関などにも要請をし、地域資源をより活用した支援も検討している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人及び家族等の希望により病院を受診され、適切な医療を受けられるようかかりつけ医との関係を築きながら支援している。職員の気付き、特変があれば関係医療機関の医師、看護師の指示を仰ぎ、ご家族へ説明の上受診を決定している。	利用者と家族の要望でかかりつけ医を決めている。協力病院の医師をかかりつけ医とする利用者が多いが、今までの主治医をかかりつけ医とする利用者もいる。同一法人の病院と協力病院が連携して利用者の対応に応じている。	

自己評価	外部評価	項目(ユニットA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関のあきクリニックの医師、看護師に入居者個々の情報提供を随時行っており、適切な対応を仰いでいる。必要時には他科受診の指示や薬の変更などを受けるなどして、入居者一人ひとりの健康管理や医療活用の支援が適切かつ迅速に行えるよう協力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には入居者本人や家族が安心して過ごせるよう病院からの情報をしっかりと把握し、早期の退院につながるよう協力をしている。病院とグループホーム職員とのやり取りで終始しないよう、グループホームは仲介役として家族につなげていく事を重視するように対策を立てている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に家族にしっかりと理解して頂けるよう説明を行って同意書を交わし、早い段階から方針を共有している。要介護3になった時点、常時車椅子で移動するようになった時点で特別養護老人ホームへの申し込みを促している。	「重度化した際の指針」を利用開始時に本人・家族に説明している。重度化して医療対応が必要になれば、家族と医師が協議して適切な医療機関につなぐ支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時の関係医療機関との連携を含めた対応マニュアルを作成し、周知している。職員に対して定期的な勉強会・訓練を行い確認をするよう計画している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行っている。夜間の火災発生に対する訓練も実施している。訓練時は消防局にも予め訓練実施の報告をして協力を得ている。	年に2回の避難訓練では、夜間における火災対応訓練も含めて、利用者も参加して階段での移動など職員と一緒に訓練を行っている。自然災害に対する避難は、高潮・浸水に対しては危険水位になれば2階に避難する訓練を実施し、津波の際には地域避難所に避難することになっている。	

自己評価	外部評価	項目(ユニットA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりのペースに合わせた対応に努め、個人情報に関しては全職員で入居者の尊厳を守り、プライバシーに配慮した言葉かけ・対応をしていくよう、職員相互で指摘しあい、その都度問題がおきたときに会議を行っている。	「オンラインでの介護研修」を職員研修として導入し、職員各自が動画による研修を受講している。人権・プライバシーに関する研修も動画で勉強している。プライバシー対応に関して、職員が疑問を持った事を話し合い改善に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の自主的な部分を尊重し、必要な事柄には常に本人による選択を行って頂き、入居者一人ひとりの人格を尊重できるよう環境づくりを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の生活のリズムは概ね決まってはいるが、可能なかぎりその時々で入居者一人ひとりのペースを大切に、その人らしい暮らしができるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者本人や家族から聞いた個々のこれまでの生活スタイルにできるだけ準じた整容が行えるように努めている。毎月訪問理美容では本人の希望に応じたスタイルにしてもらうなどして、その人らしい支援ができるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	2023年12月から調理済み食品業者を導入している。主菜1と副菜3を調理済み食材を湯煎し提供することで品数が多く色とりどりの食事が提供できるようになっている。ご飯と汁物は施設で調理、入居者には調理、配膳、片付け時にそれぞれできる事を一緒に行っている。	利用者の食事は調理済み食材と昼食の弁当を導入しているが、全ての食事のご飯と汁物、日曜・祝日の昼食は職員が調理して提供している。レクリエーションとして、月に3回程度のお菓子作りや月1回の行事食を提供している。ドライブスルーで利用者が好きな食べ物を選んで楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目(ユニットA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一食を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>必要時は家族や医療機関からの情報を得てアレルギー食材不使用、刻み食やムース食を提供するなど入居者一人ひとりの状態に合わせるよう努めている。食事量が少ない時など必要時は家族から入居者本人の好物を差し入れして頂くなどの対応もしている。また、水分摂取量の少ない方はゼリーなどで工夫し、摂取を促している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔内が清潔に保てるように支援している。週に1度訪問歯科往診にて入居者一人ひとりが定期的にメンテナンスを行ってもらえるようにしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表を活用し、排泄傾向を分析することでトイレ誘導を行い、個々の排泄の自立に向けた支援を行っている。また、関係医療機関の看護師にも入居者個々の排泄状況を常に報告し、必要な対応が適切かつ迅速に行えるようにしている。</p>	<p>利用者毎の排泄表で排泄の傾向を把握してトイレ誘導時間を設定しトイレ誘導を行っている。職員が、利用者の状態に応じたパット使用を提案し、職員間で話し合い使用量を削減した事例がある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便表を作成し、入居者個々の排便状況を把握し関係医療機関と連携して、できるだけスムーズな排便コントロールができるように情報交換している。また、飲食物の工夫や身体を動かして頂くことで、よりスムーズな排便が行えるように取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に曜日や時間帯を決めているが、入居者のその時々状態に合わせて柔軟に対応している。なかなか施設での入浴に慣れず、入浴されない入居者もありご家族に連絡し協力を仰ぐなど工夫して入って頂けるようにしている。</p>	<p>週に2~3回入浴するようになっている。入浴拒否の利用者には、毎日、声掛けをして気分がいい日に入浴する取り組みを行っている。また、利用者の生活パターンを家族に聞き、入浴時間の検討をすることもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ユニットA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者個々にあった睡眠環境を作り、安心して気持ちよく休息し眠れるように支援している。時期にあわせ、その方にあった冷暖房の調整をその都度行っている。また、不眠・昼夜逆転とならないよう、睡眠導入剤などの使用も医師と相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者一人ひとりの服薬情報をフロア別にファイリングしており、内服薬の情報がすぐにわかるように整理している。入居者に変った様子がみられた時には都度関係医療機関に連絡し、服薬変更の指示があった場合には、日誌や申し送りですべての職員が把握できるようにし、またファイリングの薬情報は都度入れ替えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常の家事を一緒に行うほか、一人ひとりの生活歴や本人の力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。本人の意思・意向をどう取り入れていくか検討し、実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望があれば、可能な限り散歩や買い物などに出かけたいが、新型コロナウイルス感染予防の観点から、入居者も職員も満足のできる外出支援は行えていないのが現状である。少人数でのドライブや屋外での茶話会、買い物などは昨年夏ごろから徐々に再開している。	天気の良い日には、少人数で近隣を散歩している。外出は利用者が解放感を味わい笑顔が見られるので、ドライブでの外出を実施している。10分程度の場所でのドライブで公園に行き季節の花を楽しんでいる。また、買い物外出にも少人数で出かけて利用者が好きな品物を購入している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり、使えるように支援している。本人・家族による管理が難しい方には社協による金銭管理支援や後見人等の支援を受けて頂いている。入居の際、金銭管理同意書にて説明を行い、同意を得て金銭を取り扱っている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニットA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の状況、時間を考慮しながら、家族や親戚に対しての電話、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎朝共用スペースの掃除を行い入居者が快適に過ごせる空間作りを目指している。また、空調には気を配り居心地のよい室温で過ごせるように努めている。施設付近での個別活動にて、季節感を感じられるよう支援している。	各フロアーには2台の空気清浄機と1台のサーキュレーターを設置し、快適な環境の整備を行い、換気にも配慮している。クリスマスやこいのぼりの飾りを制作し掲示している。毎日の居室の掃除、玄関・階段・エアコン清掃など種類別に清掃日を設定して館内を清潔に保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファを設置するなどして入居者同士と一緒に過ごせる空間を作っている。居室は入居者個々の過ごしやすい環境にしておき、いつでも自室で独りくつろげるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者一人ひとりの居室入口に本人の写真を取り入れた創作物を貼るなどして、自室を間違わないように工夫している。また使い慣れた家具や道具、家族の写真、仏壇などを置き、入居者個々の生活スタイルに合った居室作りを行っている。	利用者はベッドと必要な家具を搬入し、各自が居心地良く過ごせるように工夫している。仏壇、DVD、使い慣れたカレンダーや時計を持ち込み、家族の写真や孫娘の結婚写真などを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全で自立できる生活が送れるよう各所に手すりや個々の居室の表札やトイレなどの標識を設置している。また、各居室のタンスなどにもどこに何が入っているのかわかるようにテープなどで表示を貼っている。		

V アウトカム項目(ユニットA) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(ユニットB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を掲げて、毎朝のミーティング時に理念・行動指針の読み上げを行うなど職員に理念共有の徹底を行っている。会議において、理念を判断基準として決定している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のとの関りが持てるよう可能な限り地域行事等には参加したいが、新型コロナウイルスの感染拡大により、思うような活動が出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルスの感染拡大により運営推進会議等も思うように開催できず、地域との関りも難しい状況ではあるが、予定した運営推進会議の資料を各事業所にFAXして意見や感想を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルスの感染拡大により運営推進会議の開催が出来ていなかったが、本年度より開催できるようになっている。日々のレクリエーションの様子や行事での様子などを紹介し、その他課題点などを出して意見を頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	同地区の他施設との意見交換、区の生活課や地域包括支援センターとの連携などして、市と共にサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(ユニットB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、その有事のみの行使に至るよう対策を講じている。帰宅願望が強いなどして施設内を歩き回られる入居者がいることなどもあるが、玄関には開閉がわかるように警告音センサーを設置して対応している。予定する運営推進会議においても定期的に身体拘束への対策を議題に挙げ報告をし、感想・助言を受けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修や施設内での勉強会などにおいて虐待防止の取り組んでいる。日々の申し送りなどでもスタッフ間で確認を行い、気になることについては報告し、意見や感想を出し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	身寄りのない利用者の入居時には金銭管理に社会福祉協議会によるかけはしサービスを利用し、外部からの視野が出来るだけ入るようにしている。令和5年に入居者3名の後見審判を申請し保佐人、補助人が選任され、連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居から退去までの内容と条件を詳しく説明して同意を頂いている。契約内容の変更があれば、予め文章にて通知を行い、説明・同意の手順を再び行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常日頃から利用者や信頼関係を築けるよう努力し、訴えやすい関係を目指している。ケアプランの立案、説明時には話し合いの場を持てるようにするほか、定期的に請求書送付とともに入居者の様子を文面にて家族に報告している。伝える内容などについて統一し、担当制をとってご家族とより近い関係を構築できるよう計画中である。		

自己評価	外部評価	項目(ユニットB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員面談を定期的に行い、職員の考えを汲み取るほか、職員一人一人が気付いた事を会議に出しやすい環境が生み出せるようにしている。朝の申し送り時・午後のミーティング時の際、職員間で話し合う機会を持ち、意見等を反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	一人一人の職員の状況を管理者が把握し、向上心を持って働けるよう努めている。子育てやその他家庭の事情などで急な勤務変更が生じる場合にも職員間で互いに対処できる体制を築いている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員対象にアプリによる動画研修を実施している。また、管理者・職員を段階に応じて育成する為の研修を受ける機会を設けている。就業時は業務マニュアルに沿い、出来るようになったか本人と担当者が話し合いながら業務を広げていくようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルスの感染拡大により思うようにはできていないが、可能な限り同業の施設と運営推進会議などに相互に構成員として参加し、相談できる関係を構築している。問題が発生した時には相談や意見交換をし、相互に協力できる関係を築いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	相談を受けた当初は当施設がご利用者に適しているかといった視点からも考えていただけるよう配慮する。入居に至るまでに入居者本人との面会を実施する他にも家族や関係者などからの情報の提供を受け、職員間で今後の対応について話し合うことで、入居後に信頼関係をより早く築けるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目(ユニットB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>各職員が家族の意向などにしっかりと耳を傾け、すべて対応できているわけではないが、不安ができる限り取り除けるように努めている。窓口を設け、細かな相談まで対応できる努力をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用・入居希望の相談を受けた時にはまず、本人、家族が現状で困っていることや不安に感じている内容を知り、介護保険の概要や他サービスも含めた説明をするなどしながら、個々に応じた対応をしていけるよう努力している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>管理者・職員は、利用者の喜怒哀楽を共にし、家事やイベント、外出など様々な事に共感しながら支えあう関係を築いていけるよう努力している。日常の家事など入居者個々に出来る範囲で行って頂き、その都度感謝の声掛けをしあっている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>管理者・職員は、できる限り家族の意向を尊重し、一緒に入居者本人を支えていく関係を築いていけるよう努力をしている。変化があった時は必ず家族に連絡し、必要とあらば、家族による支援がなされるよう相談をしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居者本人の馴染みの人や、場所の関係が途切れないような支援に努めている。家族への手紙や電話の要望があれば対応するなどして、家族との関りが保てるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ユニットB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係は把握しているが、入居者同士の交流が入居者間で困難な場合は、職員が介入して円滑な関係が築けるような支援に努めている。入居者数名での個別プログラムの機会を使い、入居者相互の関わりが持てるよう支援を考えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても、必要に応じて、本人・家族あるいは他施設関係者からの相談や連絡を受け、郵送物の返送など適切な支援が行われるように説明やフォローを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	集団生活の中で制限される部分もあり希望に添えないこともあるが、入居者一人一人の要望・意向の把握に努め可能な限りでの支援が行えるよう努めている。自発的な訴えの無い入居者の意向・要望を汲み取るため情報収集に努め、職員間で共有する体制を向上させることが課題として上がっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者一人一人の生活歴、環境、サービス利用の経過等の把握を入居時に家族や関係者から聞き取り、また入居後の本人との会話の中からも生活歴を探るなどして、職員間で共有するよう努めている。職員により日々の関わりの中で得られる情報に違いがあることを前提に、共有していく事が課題として上がっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人一人の一日の過ごし方、心身状態、嗜好、有する能力等の現状を総合的に把握できるようケアプラン作成時のアセスメントを行い、生活の中で役割が持てるように努めている。ケアプランに日々の役割をあげていく中で、職員の意識も向上し、入居者のIADLの把握にもつながっている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニットB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	連絡のとりづらい家族もあるが、入居者本人がより良く暮らすため、入居者本人、ご家族や必要な関係者と職員それぞれが話し合うことで意見やアイデアを出し合い、それらを活かした介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活の様子や、ケアの実践、結果、気づき等を個人記録や業務日誌に記入し、情報を職員、家族、必要な関係者と共有しながら介護計画の見直しなどにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者に合わせた少人数でのプログラムを計画することで、既成概念に捉われない個々の要望に応じた柔軟なサービスを提供していけるように努力している。入居者個々の意志を尊重し可能な限り対応している。意思表示の困難な利用者もあるが、外出援助などにより気分転換を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内会や消防機関などと協力した関係を築けるよう努力はしているが、新型コロナウイルス感染拡大により、地域との関りに制限を設けざるを得ない状況になっている。しかし、機会があれば地域で活用可能な機関などにも要請をし、地域資源をより活用した支援も検討している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人及び家族等の希望により病院を受診され、適切な医療を受けられるようかかりつけ医との関係を築きながら支援している。職員の気付き、特変があれば関係医療機関の医師、看護師の指示を仰ぎ、ご家族へ説明の上受診を決定している。		

自己評価	外部評価	項目(ユニットB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関のあきクリニックの医師、看護師に入居者個々の情報提供を随時行っており、適切な対応を仰いでいる。必要時には他科受診の指示や薬の変更などを受けするなどして、入居者一人一人の健康管理や医療活用の支援が適切かつ迅速に行えるよう協力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には入居者本人や家族が安心して過ごせるよう病院からの情報をしっかりと把握し、早期の退院につながるよう協力をしている。病院とGH職員とのやり取りで終始しないよう、GHは仲介役として家族につなげていく事を重視するように対策を立てている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に家族にしっかりと理解して頂けるよう説明を行って同意書を交わし、早い段階から方針を共有している。要介護3になった時点、常時車椅子で移動するようになった時点で特養への申し込みを促している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時の関係医療機関との連携を含めた対応マニュアルを作成し、周知している。職員に対して定期的な勉強会・訓練を行い確認をするよう計画している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行っている。夜間の火災発生に対する訓練も実施している。訓練時は消防局にも予め訓練実施の報告をして協力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニットB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人一人のペースに合わせた対応に努め、個人情報に関しては全職員で入居者の尊厳を守り、プライバシーに配慮した言葉かけ・対応をしていくよう、職員相互で指摘しあい、その都度問題がおきたときに会議を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の自主的な部分を尊重し、必要な事柄には常に本人による選択を行って頂き、入居者一人一人の人格を尊重できるよう環境づくりを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の生活のリズムは概ね決まっていますが、可能なかぎりその時々で入居者一人一人のペースを大切にし、その人らしい暮らしができるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居者本人や家族から聞いた個々のこれまでの生活スタイルにできるだけ準じた整容が行えるように努めている。毎月訪問理美容では本人の希望に応じたスタイルにしてもらうなどして、その人らしい支援ができるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	2023年12月から調理済み食品業者を導入している。主菜1と副菜3を調理済み食材を湯煎し提供することで品数が多く色とりどりの食事が提供できるようになっている。ご飯と汁物は施設で調理、入居者には調理、配膳、片付け時にできる事を一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニットB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	必要時は家族や医療機関からの情報を得 てアレルギー食材不使用、刻み食やム ース食を提供するなど入居者一人一人の状 態に合わせるよう努めている。食事が 少ない時など必要時は家族から本人の好 物を差し入れして頂くなどの対応もして いる。また、水分摂取量の少ないには ゼリーなどで工夫し、摂取を促してい る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔内が清潔に保てるように支援してい る。週に1度訪問歯科往診にて入居者一 人一人が定期的にメンテナンスを行っ てもらえるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用し、排泄傾向を分析するこ とでトイレ誘導を行い、個々の排泄の自 立に向けた支援を行っている。また、関 係医療機関の看護師にも入居者個々の排 泄状況を常に報告し、必要な対応が適切 かつ迅速に行えるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便表を作成し、入居者個々の排便状況 を把握し関係医療機関と連携して、でき るだけスムーズな排便コントロールがで きるように情報交換している。また、飲 食物の工夫や身体を動かして頂くこと で、よりスムーズな排便が行えるように 取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	基本的に曜日や時間帯を決めているが、 入居者のその時々状態に合わせて柔軟 に対応している。なかなか施設での入浴 に慣れず、入浴されない入居者もありご 家族に連絡し協力を仰ぐなど工夫して 入って頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニットB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者個々にあった睡眠環境を作り、安心して気持ちよく休息し眠れるように支援している。時期にあわせ、その方にあった冷暖房の調整をその都度行っている。また、不眠・昼夜逆転とならないよう、睡眠導入剤などの使用も医師と相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者一人一人の服薬情報をフロア別にファイリングしており、内服薬の情報がすぐわかるように整理している。入居者に変わった様子がみられた時には都度関係医療機関に連絡し、服薬変更の指示があった場合には、日誌や申し送りで全職員が把握できるようにし、またファイリングの薬情報の都度入れ替えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常の家事を一緒に行うほか、一人一人の生活歴や本人の力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。本人の意思・意向をどう取り入れていくか検討し、実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望があれば、可能な限り散歩や買い物などに出かけたいが、新型コロナウイルス感染予防の観点から、入居者も職員も満足のできる外出支援は行えていないのが現状である。少人数でのドライブや屋外での茶話会、買い物などは昨年夏ごろから徐々に再開している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者一人一人の希望や力に応じてお金を所持したり、使えるように支援している。本人・家族による管理が難しい方には社協による金銭管理支援や後見人等の支援を受けて頂いている。入居の際、金銭管理同意書にて説明を行い、同意を得て金銭を取り扱っている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニットB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の状況、時間を考慮しながら、家族や親戚に対しての電話、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎朝共用スペースの掃除を行い入居者が快適に過ごせる空間作りを目指している。また、空調には気を配り居心地のよい室温で過ごせるように努めている。施設付近での個別活動にて、季節感を感じれるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファを設置するなどして入居者同士が一緒に過ごせる空間を作っている。居室は入居者個々の過ごしやすい環境にしておき、いつでも自室で独りくつろげるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者一人一人の居室入口に本人の写真を取り入れた創作物を貼るなどして、自室を間違わないように工夫している。また使い慣れた家具や道具、家族の写真、仏壇などを置き、入居者個々の生活スタイルに合った居室作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全で自立できる生活が送れるよう各所に手すりや個々の居室の表札やトイレなどの標識を設置している。また、各居室のタンスなどにもどこに何が入っているのかわかるようにテープなどで表示を貼っている。		

V アウトカム項目(ユニットB) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあき・なごみの家

作成日

令和6年4月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	コロナ感染拡大後に職員の入れ替わりがあり組織体制が確立されていない。	組織体制、連携とチームワークを持って利用者の支援にあたることができる。	毎日の申し送りに加え少人数のミーティングを多くとる。月一の全体会議で方針統一を図っていく。	1年
2	26・27	ICTの導入により紙媒体の記録からデータ保存への移行に慣れず、時間が掛かっている。	全ての職員がipadでの入力や機器の使用になれ記録業務の負担が無くなる。	ipadの使用方法の指導を導入業者から2/月以上受け、また職員相互での情報交換指導を行う。	半年
3	1	毎日理念を唱和するなどして徹底を図っているが、具体的な実践方法や課題を話す場がない。	理念の実践状況を職員と評価しより良い支援への課題を見出す。	月一回の職員全体会議において、理念の具体的実践について評価する。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。